ROYAL

令和８年９月 マーケット・トレンド・レポート

～天候・物価・流通の変化を捉え、秋の青果需要拡大へ

9 月は、記録的な大雨や長雨に加え、食品の値上げ、金融政策の変更、流通業界の再編など、青果を取り巻く環境にさまざまな動きがありました。食欲の秋を迎える中、安定供給と消費者の暮らしに寄り添った提案が、ますます重要になっています。

■　記録的な大雨と長雨――青果の生育・品質への影響に注意

各地で大雨による被害が相次ぎ、千葉県では 8 月の豪雨に続き、9 月にも浸水や農作物への被害が発生しました。また、東京都心では 8 月 27 日から 10 月 2 日まで 37 日連続で雨を観測し、1886 年の統計開始以来、最長記録を更新しました。9 月はすべての日で雨が観測される異例の天候となりました。

＊長雨や日照不足は、葉物野菜をはじめ、青果の生育や品質、収穫・出荷作業に影響する可能性があります。今後も産地の状況を確認し、入荷量や品質の変化に応じた調達・販売対応を進める必要があります。

■ 人口減少と高齢化――変化する消費への対応

総務省統計局の人口推計によると、2026 年 9 月 1 日現在の総人口は概算で 1 億 2,265 万人となりました。また、敬老の日に合わせて公表された推計では、65 歳以上の人口は 3,624 万人、総人口に占める割合は 29.6％と、過去最高を更新しました。

＊人口構成の変化を踏まえ、少量・食べ切りサイズ、調理の手間を減らせる商品、食べやすさに配慮した提案などの重要性が高まると考えられます。価格やおいしさに加え、使いやすさや健康を意識した商品提案が求められます。

■ 国際情勢――為替・輸入コストの動向を注視

9 月 23 日（日本時間）の日米首脳会談では、経済安全保障や関税合意の実施、中国をめぐる課題などについて意見が交わされ、連携強化が確認されました。続く 24 日には米中首脳会談も行われました。

＊今後の通商政策や国際情勢は、為替、エネルギー価格、物流費などを通じて輸入青果の調達コストにも影響する可能性があります。安定供給に向け、産地情報と市場動向を継続して把握することが大切です。

■ 日銀の利上げ――家計と企業活動への影響

日本銀行は 9 月 18 日の金融政策決定会合で、政策金利を 1.0%程度から 1.25%程度へ引き上げることを決定しました。

＊金利の上昇は、預金や資産運用への関心を高める一方、借入条件によっては住宅ローンや企業の資金調達負担に影響します。家計の購買行動とともに、企業の在庫・資金管理や設備投資への影響にも目を向ける必要があります。

■ 青果卸・食品スーパーの再編――安定供給に向けた連携

9 月 17 日、岡山丸果と大同印岡山大同青果は、2027 年度からの新体制での営業を目指し、合併に向けた動きを発表しました。食品スーパーでは、ライフコーポレーションがアルビスの連結子会社化を目的とした株式公開買付けを発表するなど、再編が進んでいます。

さらに、10 月の関連動向として、東京中央青果と千葉青果の業務提携が報じられました。産地・販売ネットワークや市場間物流を活用し、集荷の相互補完と安定供給を図る取り組みです。

＊こうした連携が、調達や物流、売り場づくりにどのような変化をもたらすか、引き続き注目されます。

■ 野菜・果物の摂取促進――毎日の食卓に、もう一品

東京都では「野菜、あと 1 皿！」キャンペーンが展開され、日常の買い物を通じて野菜の摂取を増やす取り組みが進められました。成人の 1 日当たりの摂取目標は、野菜 350g、果物 200g とされています。

＊「朝食に果物を一品」「いつもの食事に野菜料理を一皿」など、無理なく続けられる提案が消費拡大のきっかけになります。カットフルーツやサラダ、簡単な調理例などを通じて、おいしさと手軽さを伝えることが大切です。

■ 食品値上げとコメ価格の下落――価格と価値の両面から提案

帝国データバンクの調査では、9 月の飲食料品値上げは 4,923 品目、平均値上げ率は 11%となり、調味料や加工食品を中心に、同調査の 2026 年の単月最多となりました。

一方、全国のスーパー約 1,000 店舗で 9 月 21～27 日に販売されたコメの平均価格は、5kg 当たり 2,926 円となり、前週から 8 円下落。7 週連続の値下がりとなりました。

＊食品価格の動きが分かれる中、消費者は価格と満足感をより慎重に比較すると考えられます。青果でも、旬のおいしさ、食べ切りやすさ、使い切れるメニューなど、購入後の価値が伝わる提案を充実させたいところです。

■ 愛知・名古屋アジア競技大会――若い世代の活躍

9 月 19 日に開幕した愛知・名古屋アジア競技大会では、e スポーツ「ぷよぷよ」で、小学 5 年生の栗原悠輝選手が 11 歳で金メダルを獲得し、大会史上最年少の快挙となりました。若い世代の挑戦と活躍が、大きな話題となりました。

～食欲の秋、世界の旬を食卓へ

秋の需要期に向け、産地と連携した安定供給を進めるとともに、旬のおいしさや手軽な食べ方を伝える販売促進を充実させてまいります。日々の食卓に野菜と果物を取り入れるきっかけを広げ、下半期の好スタートと青果の消費拡大につなげていきます。